

令和4年度秋田県総合政策審議会第2回未来創造・地域社会部会（議事要旨）

1 日時 令和4年7月1日（金）13:30～15:30

2 場所 議会棟 大会議室

3 出席者（敬称略）

【未来創造・地域社会部会委員】

加藤 未希（合同会社CHERISH 代表社員）

鈴木 了（まちづくり団体HAPPOTURN メンバー）

竹下 香織（オルウィーヴ合同会社 代表社員）

能登 祐子（能代市自治会連合協議会 会長）

原田美菜子（認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム 副理事長）

【県】

水澤 里利（あきた未来創造部次長）

橋本 秀樹（あきた未来創造部次長）

笠井 潤（あきた未来創造部参事（兼）あきた未来戦略課長）

真鍋 弘毅（あきた未来創造部移住・定住促進課長）

六澤恵理子（あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課長）

小原 友明（あきた未来創造部地域づくり推進課長）

鈴木 雄輝（企画振興部市町村課長）

小熊 新也（企画振興部デジタル政策推進課長）

加賀谷 修（健康福祉部長寿社会課国保・医療指導室長）

石川 亨（生活環境部環境管理課長）

田口 好信（生活環境部温暖化対策課長）

熊谷 仁志（教育庁幼保推進課長）

4 議事

（1）提言に向けての意見交換

□笠井参事（兼）あきた未来戦略課長

部会資料－1～3について説明

●竹下部会長

- ・ ただいまの説明を受けて、意見交換を進めていきたい。部会資料－1の項目ごとに御意見をいただきたいと思うが、始めに第1回部会で意見の少なかった項目について御意見

を伺いたい。

- ・ 目指す姿2の「結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現」のうち1～3の項目に御意見がなかったようなので、ここから始めて行く。まずは、目指す姿2の1「結婚・出産・子育てを前向きに捉える気運の醸成」について、御意見をいただきたい。加藤委員いかがか。CHERISHには、たくさんの若いママたちが集まっていると思うので、普段の活動の中から感じるがあれば是非伺いたい。

●加藤委員

- ・ CHERISHへの参加者は、ほとんどが結婚・出産を経た、子育て中の方であるが、先日、妊活中の友人を連れて来てくれたママがいた。ママになったら、こういう場所があるということを友人に伝えたかったとのことであったが、その友人の方は、CHERISHでのママと子どもとの活動を見て、早く自分もママになりたいと前向きな気持ちになっていただけたようである。
- ・ このように、将来的に出産・子育てを考えている方でも、実際に体験しなければイメージがなかなか湧かないと思うので、子育て支援イベントの対象者を広げて、そのような方が参加できるようにすれば良いのではないかと、大変勉強になった出来事であった。
- ・ 私自身は早くに結婚・出産をしたことで、当時、周りに子育てをしている人はいなかった。そうした中、だらしない格好で子育てをしていた自分を見た友人からは、ママになるのが怖いと言われていた。その後、CHERISHの活動を始めたことで、外に出るようになり、楽しんで子育てをしている姿を見た友人からは、自分も早くママになりたいと言ってもらえるようになった。やはり、身近に見るとか、体験することで、イメージが湧くようにすることが重要ではないかと思う。

●竹下部長

- ・ 「楽しそうだな」というのがキーワードになるのかなと聞いていて思った。リアリティを持って体験している方が側にいる環境づくりや、楽しそうな雰囲気を感じられることが、CHERISHさんではできていると思われる。
- ・ 能登委員のところでも、いろいろな方が集まる場を提供しているが、その中で結婚観や、出産・子育てをキーワードに話が出てくることはあるか。

●能登委員

- ・ うちの夢工房咲く咲くは、年齢層が高い。地域のコミュニティづくりとして日々活動しており、たまに子育てサークルに利用していただくことはあるが、造りが子ども連れの方向きではないので、使いにくいと思う。
- ・ 今の親は、ほとんどが共働きで、家にお母さんがあまりいないので、本当に大変だと思う。我々の世代は専業主婦が多かったので、子どもをずっと見ていられたが、自分

の娘を見ていても朝から晩まで大変そうである。

- そのため、我々世代がサポートする側に立って、協力していかなければならないと思う。一時、そうしたサークルができたこともあったが、広がっていない。60歳代でも仕事をしている方も結構いるが、1時間でも2時間でも子育ての手伝いをできる方のサークルと拠点があって、そこで預かる形が理想的なのだろうと思う。地域にそのような拠点がたくさんあって、ちょっと子どもを預けて、1、2時間出掛けることができれば、お母さんたちはきっと助かると思う。
- そのような、みんなで連携するシステムをどうやって作るか、行政も交えて考えて行きたいと常々思っている。サポートする側も長い時間だとできないこともあるが、短時間であれば、協力してくれる方は結構いるのではないかと思う。世代を超えた交流ができるし、子育てを体験してきた人たちがサポートするので、悩み相談にもなるのではないか。

●竹下部会長

- 今の意見を踏まえていかがか。こういうアイデアがある、こういう例があるといったことがあればお願いしたい。

●鈴木委員

- 私自身は共働きで、子どもは小学一年生と年中の2人、両親は、同じ八峰町内ではあるが、車で20分程度のところに離れて住んでいる。私の地域では、家におじいちゃん、おばあちゃんがいる前提で話が進むと感ずることがあり、集落のイベントなどでも、共働きしていると対応できない時間帯に、当たり前のように集合時間が設定されることがある。自分も子ども時代に祖父母がいる環境だったのでそれも理解できるが、気になっている。
- 若い世代が都会に出て減っており、おじいちゃん、おばあちゃんが集落に増えているので、高齢者が子どもと触れ合いたいという思いと、若い世代が少しだけでも子どもを見てほしいという思いを、マッチングできる拠点が集落の中にあれば良いというのは私も思っている。
- そうは言っても、おじいちゃん、おばあちゃんの一人暮らしが増えており、おじいちゃん、おばあちゃん自身の生活もかなり大変になっていると思う。これまでであれば、若い世代が助けてくれたことも、全て自分でやらなければいけなくなっているのので、先ずはおじいちゃん、おばあちゃんが共同で住むことで、労力を分け合い、負担を減らすことができれば良いのではないか。その上で、みんなで子どもの面倒を見るというのが理想的だと思う。大きい家を一軒改修して、たくさんのおじいちゃん、おばあちゃんに住んでもらえば、冷暖房も1箇所済む、といったことを考えることがある。
- 出産・子育てについて一番思っていることは、共働きが多くなり、男性も育児参加する

べきという時代になっているにもかかわらず、土日祝日に仕事の人が多いということである。千葉に住んでいたときは、周りがサラリーマンばかりだったので、土日祝日しっかりお休みの人が多かったが、秋田に帰ってきたら、周りに農家さんや漁師さん、自営業の方が多いいせいか、土日祝日に仕事をしている方が多い。お母さんが一人で子どもを見る時間が多いと、負担が増えて、どうしても子どもに「お父さんは今日もいないな」といったことを言うと思うが、お母さんがつい口にしてしまうことが子どもに植え付けられて、「結婚って大変そうだな」といったイメージになってしまうのではないかと思う。

- ・ 賃金が上がるなど、お父さんの働く環境がよくなって、土日祝日にしっかり休めるようになり、家庭にいる時間が長くなれば、結婚・出産・子育てに前向きな気運の醸成につながると思うが、長期的に取り組むべきことだと思っている。

●竹下部会長

- ・ 原田委員から目指す姿2の1～3について何か御意見があればお願いしたい。

●原田委員

- ・ 私の活動分野とだいぶ離れているため、個人的な意見になってしまうが、例えば、出会いの場づくりをしている団体と提携して、自然の中で環境に親しみながら、距離を縮める場を作るといったイベントを企画することはできるのではないかと思う。ちょっと出掛けていきたいと思う場が少ない気がするので、そのような機会づくりのお手伝いができればと思っている。
- ・ 部会資料-3の婚姻数と出生数を見ると、婚姻数は減っているが、出生数はあまり減っていないように見受けられるので、もしかするとシングルマザー、シングルファザーの方が増えているのではないかと思ったところである。やはり生まれてくる子どもたちは、みんな同じ気持ちで迎えられべきなので、独りで子育てを頑張っている方も応援できるような空気づくりがあれば、もっと出産を前向きに考えられるのではないかと思っている。
- ・ 私自身、早くに子どもを産んだが、当時は地元を離れて子育てしていたこともあり、非常に寂しく、孤独に心を潰されることが多かったため、転勤等で県外から秋田に来て子育てしているお母さんや、逆に県外に出て行って地元の友人と会えずに孤独を感じている若いお母さんたちのお手伝いを、いつかできればと思っている。

●竹下部会長

- ・ 環境に触れる場、イベントなどの開催や、雰囲気づくりについてお話をいただいた。
- ・ 最近のニュースだったと思うが、20歳代の独身男性の4割がデートをしたことがないという衝撃的な話を聞いた。やはり、子育てに向かうにしても、その前に出会いの場が

必要であり、若い20歳代の男性がリアルにどのようなことを考えているのか、話を聞いたり、ヒアリングすることが必要なのではないかと個人的に思っている。

- ・ この部会の中で唯一の男性である鈴木委員に伺いたい。出会い・結婚の支援に関連して、若い男性の結婚観が変わってきていると感じるが、周りの方からそのような話を聞くことはあるか。

●鈴木委員

- ・ 私の周りでは、秋田に残っている人はかなり結婚しており、都会にいる人は、少し前まで独身の人も多かったが、やはり30歳を過ぎると一気に結婚する人が増えている。
- ・ それだけ結婚をしない人や、結婚に前向きになれない人が増えているのは、おそらく、様々な文化が入るようになったことで、単純に、一人でも楽しいことが増えているからではないかと思う。時代が豊かになって、趣味が増えているし、仕事もやりがいがあるので、どうしても結婚・出産・子育ては、まだその時機ではないと思う人が増えているのではないかと思う。
- ・ 結婚への支援については、私自身、地域おこし協力隊をやっていた頃に、結婚サポーターにも所属して、八峰町でイベントを何回か開催していた。鍋っこ遠足で料理をしたり、釣りをしたり、DIYでものづくりをしたりして、交流の機会を作ったことで、実際に付き合った方も、結婚された方もいて、良かったとは思いますが、これは行政でやるべきことなのかと、やりながらとても感じていた。1組とか2組とか、カップルができたのはうれしいが、とても効率が悪いなと思いつつやっていたし、時が経つにつれて、その気持ちが更に大きくなっている。
- ・ 行政による出会いのイベントに対する補助や助成は、今でも各市町村でかなり取り組まれていると思うが、そろそろどうあるべきか考える時機ではないかと、個人的には思っている。やはり単発のイベントを行政が支援したところで効果はそれほどないので、それよりは、普段から日常の中で使えるお店や、夜にご飯やお酒を飲みに行ける場所があれば、日常の中での出会いや、デートの場所になって良いと思う。
- ・ 出会いのイベントに対する、例えば30万円の助成が積み重なれば結構な金額になって、結果的に飲食店1軒作れたのではないかと感じてしまう。民間が出会い支援に取り組んで、盛り上げてもらって、そういったお店でご飯を食べてもらうという形ができれば最高だと思うが、出会いの支援は、行政が助成してまでやることなのかとと思っている。

●竹下部会長

- ・ 行政がやることについて、考える時機を迎えているのではないかということ、実体験に基づいてお話しいただいた。
- ・ 他に御意見があれば伺いたい。

●加藤委員

- ・ 1の「結婚・出産・子育てを前向きに捉える気運の醸成」になるかと思うが、ちょうど昨日、CHERISH保育園に中学生が職場体験で来てくれて、保育園と学童で1日の流れを見ていった。「赤ちゃんかわいい」と言ってくれた子もいたし、男の子も来てくれた。
- ・ 保育士や幼稚園教諭を目指している短大生などのように、もう少し大きくなってから実務体験で保育園や幼稚園に来るというイメージはあるが、中学生や高校生のように、これから将来を考える人が、保育園や幼稚園、学童などで子どもと触れ合う機会はあまりないのではないかと思う。私の一番上の息子は中学生であるが、自分の子どもが体験で保育園に行くことを考えれば、親としてはとても良いことだと思っている。
- ・ 保育士などを目指している人ではなくても、中学生や高校生のうちから、学校の授業の一環などで子どもと触れ合うことで、職業の選択につながったり、将来の自分の結婚・出産・子育てのイメージにつながるのではないか。
- ・ 学童で預かっている小学生は、中学生や高校生のお兄さんやお姉さんに遊んでもらうのをとても喜ぶし、運営の立場からは、人手不足ということもあって、若い力があるとしても助かるといった側面もある。

●竹下部会長

- ・ 子どもたちと触れ合う機会は、年を重ねていくとなかなかないが、若いうちから触れ合うことで、記憶の中に留めておくことができそうである。
- ・ これまでの皆さんの話を聞いていると、結婚、出産、出会い、高齢者などに関して、地域の方同士が交わることができるような場や、機会を作っていくということがキーワードになるのではないかと思った。
- ・ 目指す姿2については以上で終了し、次は目指す姿3に進むが、前回、御意見がなかったのが、3番の「若者のチャレンジへの支援」である。ここについて、また御意見をいただきたいと思う。鈴木委員は実際に起業の経験をされているが、チャレンジについて、こんなサポートがあったら良かったということや、周りの方から聞いた話などあれば、伺いたい。

●鈴木委員

- ・ 私は4年前に地域おこし協力隊の任期が満了したので、それと同時に、親族が所有している物件を600～700万円かけてコテージにリフォームした。平均して年間約150組・600人のお客さんに利用していただいております、小さいながら、4年で約600組・2,400人の方に泊まっていたいただいたことになる。私が起業した時は、地域おこし協力隊を任期満了まで務めた人が起業する場合に受けられる100万円の補助金があったので、それを

活用させていただき、残りは自己資金と、クラウドファンディングにより県内外から資金を募った。

- ・ 私の町には山本合名会社、今は株式会社山本酒造店という酒蔵があるが、その山本社長が知り合いだったので、起業に当たっては、かなり初期の段階から相談しに行っており、山本社長に応援してもらったことが、私を後押ししてくれた。クラウドファンディングのお返しとして、お酒の提供までしてくれたことで、山本ファンに私のプロジェクトを知ってもらいきっかけとなり、東京、福岡、北海道など全国から、山本ファンの方が泊まりに来てくれることとなった。
- ・ 自分の町の少し上の世代に、経営者として成功している人がいてくれて良かったと思っており、そういった方と交流できていたことが、私の事業が今も続いている理由の一つなのではないかと思っている。
- ・ 県の支援については、私は時間の制約などにより使えずに終わってしまったが、若者チャレンジの支援は、私の周りには挑戦している人が結構いて、活気のある状況になっている。採用数が多いため、狙いがいいがあり、「採用してもらえないか」という雰囲気にしてくれるものになっている。
- ・ 若者チャレンジの支援では、形になってきたものも、そうでないものも出てきていると思うが、うまくいっていないものも隠さずに公開してほしいというのが個人的な思いである。県としては、成功事例だけを取り上げたくなると思うが、うまくいかない所こそ、共通点が見えてくると思うので、それを潰していくことで、もっと確率の良い支援になっていくのではないかと感じている。

●竹下部会長

- ・ 加藤委員も、同じように起業された経験を踏まえてお話いただけないか。

●加藤委員

- ・ 元々は2012年に子育て支援団体を立ち上げたので、活動自体は10年になるが、小規模保育園の運営を始めたことをきっかけに法人化し、合同会社CHERISHとしては丸3年で、今4年目に突入するところである。多くの方に支えていただいて今があるが、やはり鈴木委員が話されていたように、私も社長さんなどにつないでいただいて、スポンサーさんなどつながることができたので、人と人の信頼関係がとても大事だと思っている。今のCHERISHの拠点となっている場所があるのも、竹下部会長からの御紹介であり、今があるのは竹下部会長のおかげだと思っている。
- ・ 事業を始める時は、「何をすれば良いのか、何から始めれば良いのか、分からないことが分からない」といった状況で、誰に聞けば良いのかも分からなかった。自分がやりたい活動自体もぼんやりしている中で、秋田市や秋田県に相談しに行っても、色々な課があり過ぎて、どこに相談すれば良いのかが分からなかったし、実際に相談してみても、

「あっちの課に聞いてみて」「こっちの課に聞いてみて」と言われて、多くの課を回ることとなった。今では、商工会やよろず支援など、分かりやすくなって、スムーズに行くのかもしれないが、10年前は色々な所で色々な話をした記憶がある。

- また、行政で相談を担当してくれた方が、大変親身になって聞いてくれていても、次の年になると異動などでいなくなってしまう、また一から説明するということがあったので、引継ぎをしっかりといただき、次の方ともスムーズに話ができるような仕組みになっていれば、若者も安心してチャレンジできるのではないかと思う。

●竹下部会長

- 弊社では若者チャレンジ事業の受託をしており、若者のサポートをしているが、鈴木委員からも話があったとおり、成功している方だけでなく、もがいている方も結構いる。そういった方の話を聞くと、自分自身が今どのフェーズにいるのか分からずに模索しているように感じられる。やりたいことがチャレンジということなので、ただの起業とは異なる切り口になり、モデルケースが少ないため、どのように頼れば良いか分からずに悩んでいる方が多いという印象である。
- 加藤委員からも話があったように、何から始めたら良いか分からないとか、誰に聞けば良いか分からないといった時に、気軽に話せる、少し先に行く先輩の存在がとても大事なのではないかと個人的に感じている。そういう意味でも、起業家の周りには起業したい人が集まっている気がするので、そのようなコミュニティにアクセスしていくことや、つないでいく役割が大事なのではないかと考えている。
- 原田委員と能登委員は「若者のチャレンジへの支援」について何か御意見はあるか。

●能登委員

- 皆さんの話を聞いて、やはり地域、そして地元の支援がとても大事だと思った。身近な人が支援してくれるということがとても大事なので、できれば住民が主導する、起業やチャレンジに関する相談の窓口があれば、ありがたいし、人脈がどんどん増えていくのではないか。
- やはり人と人との関わりが重要なので、地元の人だからこそ分かる、人となりや人格が分かっている中でのサポートにより、地域で顔の見える間柄を作っていくことが大事だと思う。

●原田委員

- 能登委員が話されたことがまとめになっていると思う。やはり何かやりたいと思った時に、後押ししてくれる大人がいたり、窓口があったら、少しスピードが速くなったり、成功までのステップを少し省略できたりするのではないかと思った。そのような出会いを見つけることが難しいのかもしれないが、きっかけづくりをすることはできるのでは

ないか。

●竹下部会長

- ・ 地域の人の力というか、顔が見える関係性の中で、少し先に行く人がヒントをくれたり、後押しをしてくれる仕組みがあれば良いのかもしれない。
- ・ それでは、続いて目指す姿4に移りたいと思う。ここでは2～4の項目に、前回御意見がなかったので、こちらについて話を伺いたい。2～4のどれかではなく、重なる話でも構わない。能登委員から伺いたい。

●能登委員

- ・ 地域コミュニティをどのように創出していくかということであるが、20年近く活動をしてきて、少子高齢化からは絶対に逃れられないということを実感しており、どんどん人が減っていくことは仕方のないことと感じている。その中で、残った人たちがどのようにして結束するか、まとまるかということを考えて、やはり拠点を作ることではなにかと思い、私は咲く咲くを作った。
- ・ 拠点があると、やはり人は集まってくる。先ほど起業の話があったが、私自身も起業の仲間だと思う。若い人も含め、色々な方が私のところに、相談に来てくれている。特に女性たちであるが、趣味をいっぱい持っている方々からの、どうやって表現すれば良いのか、展示をしたい、といった相談から始まって、仕事をしたいがどうすれば良いかというような、日常にある話を毎日色々な方から聞いている。
- ・ やはり地域のコミュニティはとても重要で、でも当たり前になければならないものだと思う。昔は「結い」というものがあって、みんな近所同士で助け合い、協働のまちづくりをしていた。ところが、核家族が増えて、全く個別の生活になってしまったことで、人と人との距離が離れていき、まとまらなくなって、地域が段々と衰退していったのだらうと思っている。
- ・ これをどのようにしてつなげれば良いのかなと考えて、10数年前から朝市を始めた。常盤地区という所の生産者の皆さんと、野菜を買うことしかできない私たちのような街中の人々が交流を始め、今もずっと発展して続いている。それでも、やはり人は減っていて、生産者もどんどん減っている。消費者側の買いに来るおばあちゃんたちも、施設に行ってしまうたり、亡くなられたりしている。自治会もそうだが、少し前の写真を見ると、人がいっぱいいたのに、みんないなくなっているという状況で、協力者がいなくなってきた。
- ・ 防災についても同じような状況で、防災で協力し合い、共助してきたのに、人が半分くらいになってしまっている。とは言え、半分になっても人がいなくなった訳ではないので、残った人で協働のまちづくりをしていくしかないと思っている。
- ・ そのような状況の中、どんどん衰退する朝市をどうしたら良いか、みんなと相談して、

マルシェという形を考えた。野菜の提供だけではなく、若い人からお年寄りまでが楽しめるようになっていく。若い人でもクラフトの方たちがたくさんいるが、木都と言われる能代なので、木のものを作っている若者であったり、多種多様な人たちに、この地域に来てもらうしかないと思った。

- ・ 今では5年目になるが、若者たちも含め、本当に色々な方がたくさん訪れてくれて、出展者も多くなっている。6月から11月の間、第3日曜日の午前10時から午後2時までで開催している。朝市は毎週日曜日の午前10時から11時までの1時間だけ、とれたての野菜、手作りのお菓子、お漬物を売っていて、あっという間に終わってしまうが、マルシェは、幅広い年齢層で、みんなで交流できる空間作りとして取り組んでいる。どこまで続けられるか分からないが、今は、どんどん若い人たちが増えていて、能代山本だけでなく、由利、秋田市、男鹿市といった県内各地から参加してくれている。
- ・ アクションを起こすと、それによって何かが変わっていくということを実感している。ただし、企画することがとても難しいので、そこに企画力のある新しい人たち、若い人たちに入っていただきたい。「十人十色」という言葉があるが、今の若い人たちはすごく、みんなそれぞれの考えをしっかりと持っている。私たちは「老いては子に従え」だから、少しずつ若い人たちにお願いしてシフトしながら、このコミュニティがいつまでも続いてくれたら良いと思っている。
- ・ 「巻き込み力」とでもいうのだろうか、みんなでこの地域をなんとかしようという力をいかに充実させるかということだと思う。やはり私たち住民自身が、他人事ではないという危機感を持たなければいけない。自分たちの地域をなんとかしようという思いがとても大事だと、日々思っている。

●竹下部会長

- ・ 朝市で言うと、五城目の朝市も、昔からの朝市に若い人たちが入ることによって、色々な人たちの交流が盛んになってきたという例がある。毎週続けるのも大変ではないか。

●能登委員

- ・ 要するに毎週の安否確認である。「あの人、今日は来ていない。」とか「先週は来ていたのに。」といった確認ができて、朝市は朝市でとても意味があると私は思っている。

●竹下部会長

- ・ 私が鈴木委員と初めてお会いしたのが、マルヒコビルディングさんのワークショップだったと思うが、あの時もやはり、若い方たちが集まるような拠点を作って、ワークショップをしながらファンを増やしていくという活動をされていたと思う。その取組も、このコミュニティづくりのヒントになるかと思うので、少し御紹介いただきたい。

●鈴木委員

- ・ 能代市のマルヒコビルディングに関しては、私は主体ではなく、手伝った立場であるが、能代市の若手経営者4人が新たに会社を立ち上げて、ビルを1棟丸ごと改装して、カフェ、コワーキングスペース、DIYを教える学校をオープンさせた。
- ・ その人たちは、「オープンしました。来てください。」というのは違うよね、それだと、本当に町の人のための場所という感じがしないよね、という思いで、オープンまでの過程をととても大事にしていた。その人たちは木工関係の人たちであるが、普通は「なんでただでそんなことを手伝わなくてはいけないのか」というような、テーブルを作ってもらおうとか、壁をきれいにしてもらおうといった作業を、町の人と一緒に楽しくやっていた。そうすることで、手伝った人に「ここは私が携わった場所だ」とか、「私たちの居場所だ」といった気持ちを持ってもらおうという取組であった。
- ・ そういった取組は、マルヒコビルディングだけでなく、八峰町でも空き家の活用で取り組んでいたテーマであって、人によっては「なんでそんなことをやらなくてはいけないのか」ということでも、やりたい人がいることを見つけて、一緒にやることで、町の取組に参加してもらおうということは、とても良いことだと思う。
- ・ マルヒコビルディングでは、私はデスクをひと月1万円で借りており、自分のコテージの掃除が終わったら、すぐにそこに行って設計の仕事をするという活動をしている。カフェがオープンしてからは、市民の方がたくさん利用されている様子だし、やはり人と会えるのが良いと思う。人と会う、顔を合わせることで会話が生まれ、そこから活動のアイデアをもらえるような場所があることが、とても良いことだと思っている。今日の話でも、拠点や場づくりといった話が出ているが、私も建築士としてその重要性をととても感じている。
- ・ そのような場所が、どのくらいの規模が良いのかについては、よく考える必要がある。大きくてお金をいっぱいかけたにもかかわらず、維持管理できない、いわゆる箱物と呼ばれるものは良くないということになって、それなら空き家や空き店舗を活用しようという、民間の小さな活動を、どれだけ応援してくれるのか、行政に期待するところである。
- ・ 費用の面だけでなく、建築士の立場から言うと、建築や消防に関する法律について思うところがある。もちろん、安心・安全に暮らすために必要なルールなので、全国一律で決まっていることだが、条例を定めることで特色のある町づくりができるようになるので、行政にはその力を活用してほしい。条例の力はすごい。我が町はこういう町づくりをしていくということ、強く打ち出している事例を見ると、とても良いと思う。行政の皆さんにしかできない力を生かして、もちろん安心・安全を守りながら、こういう町づくりをするんだという条例を、どんどん作ってほしいと常々思っている。

●竹下部会長

- ・ 目指す姿4の3番「多様な主体による協働の推進」については、原田委員の御意見も伺いたいと思うがいかがか。

●原田委員

- ・ あまり地域活動に参加することができないので勉強不足ではあるが、多様な主体の中には、普段働いていて、なかなか地域に目を向けることができない私のような存在もいて、地域の方と接することができない状況にある。それでも、情報をもらえれば、気まぐれにはなってしまうが、朝市に行ってみようとか、気分を変えてカフェに行ってみようとか、思うことはあるので、小さいコミュニティの活動であっても、全県に情報を広めてもらえれば、遠くからでも足を運ぶ人がいるのではないかと思う。
- ・ 高齢者の方や子どもと接する機会がないので、世代間交流ができて、自分も楽しめる・癒やされる空間があれば、ぜひ出掛けていきたいと思う。

●竹下部長

- ・ 普段のNPO法人としての活動の視点からだと、協働というのがキーワードになると思うがいかがか。

●原田委員

- ・ 私たちのNPO法人として最も達成しなければいけないと思っているのは、環境活動している方々が、情報交換できる場づくりを実現させることだと思っている。そこには、子どもの環境教育の場もあるし、地域の環境活動や温暖化防止活動をしたいという意欲のある高齢者の方々がたくさんいるので、そういった方々と地域の活動をつなげてみることもできるのではないか。

●竹下部長

- ・ 今後の企画に期待している。能登委員どうぞ。

●能登委員

- ・ ちょうど、昨年から環境あきた県民フォーラムさんに採択していただいております。昨年は、地球温暖化を防ごうということと、3世代で環境を学ぼうということを実施した。孫とお母さんとおばあちゃんの3世代で、ハックルベリーの畑に行って、自分たちで果実を採ったり、全部ミキサーにかけて、スカーフを染色したりと、自分の身近でそのようなことができるということを体験してもらった。秋田県の豊かな自然は素晴らしいし、遠くへ行かなくても、自分の地域の中でこういうことができるということを学んでもらいたいと思って取り組んだ。
- ・ やはり、次世代への環境の教育がとても大事だと思っており、環境あきた県民フォーラ

ムさんからの支援があったからできたことではあるが、それをどんどんつなげていきたいと思っている。

- ・ その時に開催した講演会の講師が、有名なアースデイ東京の方だったが、ボランティアで来ていた高校生がその講演に感動して、自分たちもアースデイ能代をやりたいとその日のうちに宣言し、その次の日から活動が始まった。先日、本当にアースデイ能代を実現することができ、高校生がその成果にとっても感動してくれて、次の学年につなげていくことを約束してくれた。
- ・ 今年の活動はこれから始まるが、アースデイ能代のことは、テレビ番組でも取り上げてもらった。高校生とハックルベリーの苗を植えに行ったが、これが実って収穫したら、今度はお菓子作りなどをして、また次の学年につなげていくことをしたい。
- ・ 高校生には、できればこのアースデイ能代を全県に展開して、アースデイ秋田にしたいという夢があるので、そのお手伝いをしてあげたいと思っている。今は能代高校だけであるが、来年は、能代山本の4校の高校生をつなげて、みんなで活動ができれば良いという話をしている。
- ・ このように、今の高校生はとてもレベルが高くて、私たち大人が学んでいる状況である。環境もそうだが、IT関係は、年寄りの私たちはできないが、高校生は何でもスマホでできてしまう。これが現実なんだと思っており、デジタル化もやはり高校生がいなくてできないし、全部の世代がつながっていけば良いと思っている。
- ・ やはり教育がとても大事だと思うので、環境に関する教育をみんなで進めていければ良いと感じている。

●竹下部会長

- ・ 高校生たちが動いて、それが形になっていくことを実感できると、とても自信になるし、おそらくそれが、地元や地域を愛する根源になっていくのではないかと思った。今の話は目指す姿5の2番にも関連していたと思う。
- ・ 加藤委員はいかがか。御意見があれば伺いたい。

●加藤委員

- ・ 今話を聞いて、高校生や学生が主体になって、そこから高齢者の方につながって、一緒に何かに取り組むというのは、とても良い例で、素晴らしい形だと思った。私は秋田市をメインに活動しているが、秋田市よりも市外の方が、そういった若い方から高齢者の方まで一緒に活動している事例を聞くことが多いと思う。私もそういった話を聞きながら、自分にもできることをやっていきたいと思っている。
- ・ 話が少しずれるかもしれないが、私は秋田市の四ツ小屋という小さい地域に住んでおり、そこで息子がサッカーのスポーツ少年団に入っている。四ツ小屋小学校自体の生徒数がどんどん減っていて、学校統廃合の話が出てくるような中であって、スポーツ少年団の

団員も少なくなっているのです、小学生に限定せず、幼稚園の年中・年長さんに合わせたキッズサッカースクールを、監督や指導者がボランティアでやってくれている。

- ・ 小学校の体育館が空いていて、先生と相談したり、地域の方と相談して、借りることができたので、そこを会場にして毎週日曜日に開催しているが、この間は、おじいちゃんが見に来ていて、孫たちが元気に走り回っている姿を見て元気をもらったという話をしていた。
- ・ やはりスポーツなど、好きなことであれば頑張れるので、好きなことの力でコミュニティをどんどん広げていくのも良いのではないかと。私も仕事と子どものサッカーの応援が生きがいという感じになっている。スポーツや好きなことの力で、秋田を元気にしていくとか、地域との関わりを増やしていくのも、一つの例になるのではないかと。

●竹下部会長

- ・ 好きなことだと力が入ると思う。
- ・ それでは、次に目指す姿5の2「持続可能な資源循環の仕組みづくり」について、先ほど能登委員からも話があったが、原田委員いかがか。御意見があればお願いしたい。

●原田委員

- ・ なかなか壮大なテーマなので難しい。この環境と経済も多岐にわたるので、ここを学ぶところから始めなければ、一般の県民の方の関心がこの部分に集約しないのが、難しいところだと思う。
- ・ おそらく、リサイクル、リユース、リデュースということ自体は、社会的に浸透していると思うので、実際に、誰もがやりやすい、あるいは何ができるのかという選択肢を与えることを、行政や民間、NPOで取り組めば良いのではないかと。概念を知って、次に実践するということで、県民の方々に実際にやっていただくことを促すことができれば良いと思う。たくさん事例があると思うが、事例紹介も含めて、毎日自分ができることを、選択肢としてたくさん提供できれば良いのではないかと。

●竹下部会長

- ・ 鈴木委員から、例えば建築の分野で、持続可能な取組などの例があれば伺いたい。

●鈴木委員

- ・ 建築の分野で感じていることは、建築のごみ処理に掛かる費用が驚くほどに高くなっていることである。2畳ほどの箱でごみを捨てているが、6年位前は3万円程度であったのが、今は4万円近くになっている。やはり、それだけ分別などが厳しくなっているために、手間がかかって費用が掛かるのだろうと思っている。建築はごみをたくさん出すので、どうしたら減らせるのか考えるが、なかなか減らすことができない。どうにかしたいと

思っているものの、申し訳ないが、はっきりと言えないことがない。

- ・ 建築からは外れるが、海のごみにつながる話をしたい。八峰町は釣りの場所として非常に有名で、この時期になると、漁港などに釣り人がたくさん来る。そうすると、やはりごみがたくさん落ちていて、見て気持ちの良いものではない。また、ハタハタの季節になると、更に多くの人が来るので、ごみも増えてしまう。ハタハタのために、あんなに寒い時期に、県外からわざわざ来る人もいて、車がびっちりになっている。釣り糸が切れてしまい、意識せずにごみを出すこともあるが、針などが入っていた袋をそのままポイッと捨てているところを、結構目にするところがある。
- ・ 漁師さんの知り合いもいるが、漁師さんも結構ごみを海に捨てていて、その辺りの漁師さんの意識はどうなっているんだろう、昔のままなのだろうかと思うところがある。漁師さんこそ捨てずに、注意できる立場であれば良いと思う。もしPRするために、誰か人を選べるのであれば、漁師さんを前面に出して、漁師さんが海を守ろうと言う方が、大人も子どもも一番分かりやすいのではないかと思う。
- ・ 意識の高い漁師さんもいると思うが、まずは漁師さんの意識改革から始めて、漁師さんが先頭に立ってくれば、一番海をきれいにしてほしいと考えている人たちだと思うので、私たちにとって分かりやすいと思う。

●竹下部会長

- ・ 今のところまでで、前回の部会で御意見が少なかったところについて、一通り伺ったことになる。ここからは、前回も話したが、もう少し意見を言いたい、あるいは、前回以降、このような意見を考えたといった話を聞いていきたい。
- ・ 目指す姿1から順に6に向かって進めたいと思うが、まずは目指す姿1について、御意見を伺いたい。「新たな人の流れの創出」ということで、人口減少問題はかなり喫緊の課題であるが、能登委員はいかがか。先ほど、人の交流という話もあったが、感じている部分があったらお聞かせいただきたい。

●能登委員

- ・ 人口が減少していくことは、大変なことである。その中で、県も推進している関係人口の取組についてお話しする。私たちの団体も、7月3日に、県の関係人口に関するイベントの中で、五城目町から全国に取組を発信することになっている。プレゼンをした上で、自分たちの地域に関心を持ってくれた方が、同じルームに入ってくれるという形である。
- ・ どうやっても人が減っていく中で、やはり外から人に来ていただくことがとても大事だと思う。移住未満・観光以上という関係人口をどんどん増やすことで、秋田県に来てくれる人が増えれば良いと思う。最初は、秋田の良さを知ってもらって、体験してもらうことが重要だと思うので、私たちは、優れた発酵食品など、秋田の食をお勧めしている。

食で、皆さんの胃袋をつかむというか、興味を持っていただこうと思っているところである。

- ・ このオンラインがとても便利で、コロナがなければこんなことはなかったと思うが、オンラインのおかげで、これまでは絶対につながっていなかったような全国の皆さんとつながることができている。参加者には、全国に家族ができたようだと喜んでもらっている。
- ・ オンラインの料理教室も、昨年から4回、全国に発信して開催した。最初は誰も能代のことを知らなかったが、料理を通して秋田や能代のことに興味を持ってくれて、段々と好きになってきている。能代に行きたいと言ってくれる人もいて、先日、本当に全国から8名の方が能代に来てくれた。白神山地に行ったり、能代の街中を歩いたり、発酵食品を売りにしている糰屋さんに行ったり、それぞれ興味があるところに行ってもらったほか、先ほど話したアースデイ能代も組み合わせ、高校生の支援もしてもらった。
- ・ こういった取組から、関係人口をきっかけにするのは、とても効果的だと感じた。今、県が進めている取組も、不特定の方を相手にするのではなく、関心があるところに参加してもらおう仕組みなので、次につながりやすく、とても良いと思う。発信する私たちも、誰にも興味を持たれないということがないように、しっかり勉強をする必要があると思っている。
- ・ 関係人口づくりは、これからもっと盛んになっていくと思っている。私たちが普段やっていて、「こんなもの」と思うことであっても、県外の皆さんにしてみると、感動するようなこともあって、新発見がある。
- ・ いつもオンラインでしか会わない人が、初めて能代に来てくれただけで感動し、一緒にだまこ鍋などいろんな料理を作ったまた感動した。また来ますと言ってくれて、関係人口の取組は、リピーターになってくれる可能性がとても高くなることを実感した。
- ・ こういった取組を通じて、いろんな所で、いろんな形で、秋田県をPRする機会を作ってほしいと思っている。

●竹下部会長

- ・ 県民にとっては当たり前になっていることが、県外の方から見れば、とても貴重で価値のあるものと感じてもらえるということ、県や県民も知っているにもかかわらず、発信下手なところが秋田県人の難しいところだと思う。
- ・ 昨日、私も県立大学の学生と話したが、山形県出身の学生が、秋田は食がとても良いと感じていた。発酵について、大変興味を持っているとのことであった。やはり、若い方も秋田の食や発酵に注目しているということ、改めて実感した。
- ・ 目指す姿1について、御意見のある方はいるか。

●鈴木委員

- ・ 前回、ワーケーションについて発言をして、それに対する県からの取組等の説明を読み、こういったことに取り組まれているのは非常に素晴らしいことだと感じている。
- ・ 部会資料－２の現状等の部分を見て感じたのは、ウェブサイトが多いということである。多岐に渡ってSNSを活用したり、仕事に関するウェブサイトを作ったり、子育てに関するウェブサイトを作ったり、情報発信は非常に大変だろうと思っている。
- ・ 例えば、仕事に関しては、「秋田就職ナビ」や「こっちゃけ」、「秋田ご縁アプリ」など、3本程度に分かれているので、それぞれの違いがはっきりと出されていれば良いと思う。資料を見ただけでは分からないが、特徴がそれぞれ違ってれば、それぞれのウェブサイトに関心される人も違ってきて、幅広い方に見てもらえるようになるのではないかと。もし、それぞれのウェブサイトの情報に重複する部分があるのであれば、情報を絞った上で濃い情報にした方が良いのではないかと。
- ・ やはりここ数年、ウェブサイトを作らなくてはいけないということで、一斉に立ち上げたところがあると思うが、一旦、これまでの成果をしっかりと検証して、情報を絞るべき所は絞り、情報を濃くして、より多くの人に届けるように整理してもらえれば、非常に助かる人もいるのではないかと。
- ・ 前回の部会后、教育留学ということをさらに考えて、やはり教育留学は県にとって非常に良いことなのではないかと思ったところである。他県等の取組で、北海道では、保育園の一時保育を利用したワーケーションを行っていることや、保育園の体験入園に関しては、内閣府の一時預かり事業を活用することにより可能になるといったことが資料に書かれているが、ここはとても可能性のある分野ではないかと思う。逆に、この北海道の取組が出てくるということは、まだまだ取り組んでいるところが少ないということだと思ってしまうので、秋田の教育という強みを生かして、特徴のあるところで取り組んでもらえれば良いと思う。
- ・ 調べてみると、ワーケーションは、まだ結婚していない方や、20～30歳代の方がフットワーク軽く利用することが多いが、結婚してからだと利用率がだいぶ下がるようなので、教育留学を活用することにより、結婚して動きづらくなった方を逆にターゲットにして、秋田に家族みんなに来てもらえれば良いのではないかと。
- ・ 単身者を対象としてワーケーション環境を提供している施設の悩みは、ワーケーションをしている方は、日中ずっと施設にすることが多いので、電気代が非常に掛かるようである。単身者の場合は、単価を高く設定することができず、もうからないとのことで、コロナ禍において、なんとか生き延びるためにワーケーションの形態に転換したが、元に戻したいということも多いようである。
- ・ それに比べると、結婚していて、教育に興味があり、共働きの方は、収入のある方が多いと思うので、そういった層の方に秋田に来ていただき、秋田県ならではのおもてなしをすることで、収益も計算できる持続可能な取組につながると思う。秋田らしいワーケーションのあり方を見つけてもらえれば非常にうれしく思う。

●竹下部会長

- ・ 教育留学は、ウェブサイトへのアクセスがとても増えたという記事を目にしたし、やはり関心が高いかもしれない。
- ・ ここ最近、さきがけ新聞で「若者のミカタ」というシリーズを掲載して、若年女性がなかなか秋田に定着しないので、そこをどのようにして解決するのか、若者がどうすれば生きやすく、住みやすい地域になるのかということを議論されていたが、若年女性の定着・回帰について、委員の皆さんからも御意見をいただきたい。
- ・ 加藤委員に伺うが、若年女性や周りの方たちで、県外に出たが帰って来たいという話など、CHERISHに集まる若いお母さんたちからでも、何か話を聞いたことがあれば教えていただきたい。

●加藤委員

- ・ 逆に秋田から県外に出て行ったパターンのお話になってしまうが、私の先輩、後輩や同級生など30歳代前後の人たちが、秋田にいても、毎日仕事と家の往復だけで出会いがないため、最終的には出会いを求めに県外へ出るという話をよく聞く。仕事を辞めて、思い切って東京に行ってくるとのことである。
- ・ そのため、根本的には出会いの話であり、これまでも議論してきた出会いの場や、出会いの機会の話につながっている。周りがどんどん結婚してきている中で、自分も秋田で結婚したいと思うが、毎日仕事と家の往復で終わるので出会う場がない。周りが結婚している場合、異性を紹介してもらい機会も少なくなる。そうすると、思い切って自分で行動して県外に行くというパターンが結構あるようだ。
- ・ CHERISHの参加者の中には、転勤族の方で、秋田に移住することにしたという人もいる。実際に住んでみると、都会より秋田の方が子育てしやすいとのことである。金銭的な面では、秋田の方が給料は低くなるが、その分、掛かるお金もあまりないし、マイホームのことも考えると、収支のバランスを見て、秋田でも十分に楽しむことができるという判断で、秋田に移住するようである。

●竹下部会長

- ・ 秋田から県外に出た方は、どのような仕事していたのか。

●加藤委員

- ・ 土日に休みがなく、早番や遅番のあるフロント業務や飲食店関係の方たちである。職場では周りは子育て世代のパートさんが多く、自分一人が正社員という状況のため、時間の融通が利く自分が率先して早番も遅番もやらなければいけないということであった。それに対して不満がある訳ではなかったが、どうしても自分の時間が取れずに、仕事だ

けで終わる毎日になってしまっていた。

●竹下部会長

- ・ 原田委員は御意見はあるか。

●原田委員

- ・ 秋田の良さを知って移住してくれる方がいることはとてもうれしいことであるし、どんどんそのような方が増えてほしいと思っている。部会資料-3の「施策ごとの状況」のうち「④『あきたに住みたい、暮らしたい』を支援する体制の充実強化」に、「秋田県ふるさと定住機構との協働により移住相談窓口を県内に設置・運営し、移住希望者や既移住者からの相談・支援対応を行った」とあり、結構な件数が記載されているが、これは1年間の件数か。また、具体的にどのような内容であったかなど、教えていただきたい。

●真鍋移住・定住促進課長

- ・ 記載した相談対応件数は1年間の数である。これは秋田にある相談窓口であるが、具体的な内容としては、秋田に移住・定住された方に対する支援制度の案内や、県の移住・定住登録の勧奨などである。東京にあるAターンサポートセンターという相談窓口でも、相談件数はコロナ禍前ほどではないが、昨年度に比べて増えており、回復しつつあるので、今後も増えるのではないかと予想している。東京の窓口での具体的な相談内容としては、移住の相談もあるが、最近特に多いのが、新しい働き方としてのリモートワークや起業に関するものである。
- ・ 移住自体も増えているので、相談窓口におけるきめ細かい対応が求められている。相談員が対応できなければ、例えば市町村につないだり、実際に移住してリモートワークや起業された方につないだりといった対応が、以前にも増して重要になっているので、充実させていきたい。

●原田委員

- ・ これだけの相談があるということは、やはり秋田に関心を寄せてくれる方が多いということで、県民としてうれしく思うが、相談後に実際に移住する方を今後増やすためには、移住した方が疎外感なく地域に馴染めるようなサポートがあれば良いと思う。そうすることで、更にそれが呼び水になって「秋田良いところだよ」と言ってもらえるのではないか。

●竹下部会長

- ・ 目指す姿1と2を絡めたような話になっているが、目指す姿1について他に話しておきたいことはあるか。

(意見なし)

●竹下部会長

- ・ それでは、次に目指す姿2について御意見はあるか。

(意見なし)

●竹下部会長

- ・ 先ほど子育てやお母さんに関する話を伺ったので、目指す姿2についても大丈夫ということで次に進む。
- ・ 目指す姿3「女性と若者が活躍できる社会の実現」について、御意見を伺いたい。前回は「男女共同参画の推進」と「あらゆる分野における女性活躍の推進」ということで話をいただいていた。能登委員が感じていることなどあれば伺いたい。

●能登委員

- ・ 県でも女性リーダーの育成を続けていて、先日も大館で啓発イベントがあった。活気があふれていて、県北の女性たちはすごいと思った。
- ・ 1回都会に出て、秋田に戻って来た方たちが、やはり女性活躍の必要性を理解しているため、1回県外に出ても良いので、Aターンで戻って来ていただくことがとても大事なことだと思う。登壇された方たちは30～40歳代の女性だったので、ウェブサイトの活用などにより、都会にいるその層へのAターンの働きかけが必要だと思う。
- ・ Aターンに当たっては、引っ越しが必要であるし、生活が少し不安定になると思われるので、不安に思われている方への支援があれば良いのではないか。
- ・ 大館の啓発イベントでの話を聞いて、女性が秋田に戻って来た場合に、果たして自分らしく生きることができるのかという点がやはり問題になるのだろうと感じたので、そうした観点から取組を進めてもらいたい。

●竹下部会長

- ・ 続いて目指す姿4に移っていきたい。「変革する時代に対応した地域社会の構築」に追加で御意見があれば伺いたい。

(意見なし)

●竹下部会長

- ・ 次に目指す姿5「脱炭素の実現を目指す地域社会の形成」である。何か御意見はあるか。

(意見なし)

●竹下部会長

- ・最後に目指す姿6「行政サービスの向上」である。御意見、補足等あれば伺いたい。

(意見なし)

●竹下部会長

- ・ここまで皆さんから御意見をいただいて、皆さんが考えていることは、人とのつながりや交流であったり、人口を増やすにしても、温もりを感じる機会があれば良いということではないかと、私は感じている。
- ・皆さんがそれぞれの領域で感じていることがあると思うが、せっかくの機会なので、最後に話したいことがあれば、目指す姿にとらわれずにお話いただきたい。鈴木委員いかがか。

●鈴木委員

- ・こういった場に呼んでいただいて、結婚の支援などについて改めて考えた。「出会いがない」とよく聞くし、それが理由で県外に出て行く人もたくさんいると思うが、本当は出会っていても、格好悪い男性だというパターンもあるのではないと思う。要は、スルーされている男性ということである。
- ・男性と女性のどちらにも言えることであるが、生き生きと仕事をして、プライベートも充実して、身だしなみに気をつけるような人が増えれば、マッチングはうまくいくと思う。
- ・「出会いがない」という言葉を、もっと細かく分析できれば、具体的な取組を思いつくのではないか。飲み屋がない、格好良い人がいない、仕事が充実している感じがしない、プライベートの情報発信が下手、コミュニケーションが下手など、様々な意見があると思う。
- ・行政がどのように取り組めば良いか分からないが、格好良い人を増やそうということである。プロ野球のある監督もまずは身だしなみから気をつけようと言っていたが、そういう面も必要だと思う。また、外面だけでなく、生きがいをもって、憧れられる人になるということも大事である。
- ・私の周りでは、親の世代が格好良かったから地元に残ったという人がたくさんいる。今は私の世代が祭や消防団など、地域の活動に取り組んでいるが、仕事量が多すぎて辛くなっており、生き生き活動できず、イヤイヤやっているのも、変えていかなければいけないと話しているところである。生き生きした人を増やすということが、全てを解決し

ていくと思うので、そのためのサポートを考えて行く必要があると思っている。

●竹下部会長

- ・ 最初に加藤委員から「楽しんで」というキーワードをいただいたし、今、鈴木委員からも「生き生き」という話があって、自分たちがここ秋田で暮らしていることを、楽しみ、誇りに思い、充実していることを表現していくことが大事なのではないかと感じた。
- ・ 能登委員からも、全体を通して感じることをお願いしたい。

●能登委員

- ・ 皆さんの話のとおりで、人との信頼関係を築くことが、一番大事なことだと思っている。信頼関係を築きながら、つながって連携していくことや、多様性の中で、皆さんが認め合うことがとても大事だと思う。男女共同参画の話になってしまうが、女性だからとか、男性だからということではなく、みんなが協力し合うことがとても大事である。
- ・ デジタル化が大変心配である。若い人には分からないと思うが、いろいろなことが短期間でどんどん進んで分からなくなっている。デジタルが苦手な人でも、分かるような説明を表示していただいたり、高齢者で目が見えにくい人でも、文字を大きくして見やすくしていただきたい。
- ・ 高齢者にとっては、デジタル化は非常に恐怖である。スマホの使い方講座に勉強しに行くなど、少しずつ努力はしているが、いざ使うとなると分からなくなってしまう。お子さんが近くにいる人は、教えてもらえるので良いが、高齢の一人暮らしの場合は大変なことになるという危機感がある。なんとか高齢者にとっても分かりやすいデジタル化を進めていただきたい。

●竹下部会長

- ・ 原田委員、全体通して御意見をいただきたい。

●原田委員

- ・ 能登委員のデジタル化への不安という思いは、私の親も持っているので、デジタル化難民を出さないようにしてほしい。デジタル化についていけない人であっても、同じように制度を利用できるようにセーフティネットを作っていただきたい。聞きたいと思ったときに聞ける人がいることは、なかなかないと思う。意欲のある方は学びたいと思って、自分から聞きに行くのかもしれないが、そうではない方もたくさんいると思うので、デジタル化の取りこぼしになって困る人が出ないような配慮をしていただきたい。
- ・ 環境活動を始めたのが20年ほど前であり、当時からは考え方がだいぶ変わっているが、環境活動に一生懸命取り組もうという人口が減っているような気がしている。秋田県の良さの一つは自然環境である。私たちが生まれるずっと前から残ってきた自然が宝物だ

ということを、親世代も子どもたちにも知ってもらい、受け継いでいきたいので、県民自身が自覚しながら、自然と共生する県ということを県内外にアピールできれば良いのではないかと。自然環境を一つの誇りとすることができるのではないかと考えている。

- ・ 洋上風力を始めとした地熱などの再生可能エネルギーは、秋田県の財産であると新秋田元気創造プランに記載されていたが、今後、それを更に推進するためには、県民の方にも必要なものであることを理解してもらう場が必要ではないか。再生可能エネルギーに対して不安に思っている方には、安心してもらうために、説明していく必要があると思う。風力発電に関しては、私も当事者であるが、どちらかというと不安に思っている方が多いと感じる。その不安が、想像上のものと、実際に配慮すべきものが混在しているので、「実際のところはどうか」という踏み込んだ説明をする必要があると思っている。
- ・ 不安を置き去りにして、再生可能エネルギーを推進するのではなく、きちんと住民の方が安心して、秋田県の良いところなんだと理解した上で進めていかなければならないと思う。デジタル化と同じで、変化はなかなか受け止めにくいものであるため、異なる歩幅で歩いている方に合わせた施策を、きめ細やかに進めていただければありがたい。

●竹下部会長

- ・ 最後に加藤委員からも、全体を通して御意見をお願いしたい。

●加藤委員

- ・ 私自身は子育ての話がメインになるが、それ以外の観点からの話を聞いて、そういう考えもあるんだと勉強になった。こういった意見交換の機会はあまりないので、様々な方の御意見を聞いて、形にしていくのはとてもワクワクするし、良い方向に向かっていければと思っている。また次回も、自分なりの発言ができるようにしたい。

●竹下部会長

- ・ 皆さんから御意見をいただいて感謝する。まだまだ御意見はあると思うが、時間になったので、意見交換を終了させていただく。最後に事務局から何かあるか。

(2) その他

□事務局

今後の進め方等について説明

●竹下部会長

- ・ 進行を事務局にお返しする。

□事務局

- ・ 長時間にわたり活発にご審議いただき、感謝申し上げます。
- ・ 以上をもって、令和4年度秋田県総合政策審議会第2回未来創造・地域社会部会を閉会する。

以上